

【VR文化フォーラム '98報告】



VR文化フォーラム '98報告

◆メッセージ

河口洋一郎

(VR文化フォーラム実行委員長)

先端メディアを疾走するVRは、やはり根源的なところで人間環境とのかかわりを避けて通れない。21世紀を目前にして、VRは今ここで本質的なまでの自然との関係を問い直す必要があるのかもしれない。次の世紀の人類が創出する豊かな文化の可能性について、とことん模索し、それを自然のまっただ中で体感する純粋な思考が求められているような気がする。世界遺産である屋久島は固有の生物種の宝庫でもあり、亜熱帯の太陽と豊富な水、樹齢何千年もの原生林が奏でる原始自然の呼吸のリズムはまさに圧巻である。この恵まれた場所で、VRと原始自然との環境共生をじっくり考える機会を持ち得たことはすばらしいことであり、最高の舞台でもある。各自の本質的なVRの重要性を再認識する一助になれば幸いである。

◆VR文化フォーラム '98 in 屋久島 ~原始自然との新たな環境共生~

仁科エミ

(メディア教育センター)

「VR」と「屋久島」。一見、対極にあるかのような両者の遭遇のなかにVRの未来展望をもとめて、第二回のVR文化フォーラムは世界遺産の島・屋久島で開催されました。屋久島は固有の生物種の宝庫、樹齢数千年もの原生林などで知られ、原始自然の姿を日本国内でもっとも濃厚に現代に伝えている地域のひとつです。その究極的な自然環境を体感し、自然とVRとの共生を考える契機

となることをめざして、シンポジウムとエクスカージョンという二本の柱を企画しました。おかげさまで遠隔地にも関わらず200名を超える方々に参加いただき、成功裡に終えることができたのではないかと考えています。

5月18日のフォーラムでは、館学会長のVRを概観する講演の後、「キャビンと舞踊の仮想都市」(廣瀬通孝+山崎浩子+月尾嘉男)、「仮面の狂気と幻覚」(大橋力+原島博+伊東順二)、「アニメの仮想する原始自然」(菅野嘉則+水島能成+河口洋一郎+竹村真一)という3つのシンポジウムとショーが行われました。詳細は別の機会にご報告したいと思います。いずれも刺激的で示唆に富んだ内容でした。また、関係者のご尽力により、屋久島と東大CABINとをISDN回線で結んだデモンストレーション、特設したハイビジョンプロジェクターでのHD作品上映、CG製作プロセスの紹介ビデオ上映など、貴重な映像体験も実現しました。

屋久島の自然を体験するエクスカージョンにも多くの方々に参加されました。とくに、フォーラム前日には講師を含む約20名がおおよそ10時間をかけて山中を踏破、樹齢2600~7200年、幹の周囲16.4mという最大の屋久杉“縄文杉”と感動の対面を果たしました。とはいえこれでも屋久島の片鱗にふれたにすぎません。ぜひとも屋久島を再訪したいという声を多く聞きました。

最後に、絶大なお力添えをいただきました鹿児島県をはじめ、後援・協賛・協力をいただきました団体・企業のみなさまに心から御礼申し上げます。

◆VR文化フォーラム'98 in 屋久島に参加して

谷川智洋

(東京大学工学部機械情報工学科 廣瀬研究室)

去る5月18日、屋久島文化村センターで開催されたVR